

業務部速報



No. 40

発行 25. 9. 11

JR東労組 業務部

申4号「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」に関する申し入れ 9月10日 団体交渉を行う！②

【共通】

●組合 ■会社

2. 鉄道の安全を守るために、チームワークをより深度化させることが必要なことから、職場に過度な競争を持ち込まないこと。

●鉄道の安全はチームワークによって守られている。チームワークを阻害する過度な競争は不要である！

■チームワークは鉄道に限ったものではなく、ビジネス全般に使えるもの。組織の形態が変わっても列車の運行は変わらない。変わってはいけない最たるものの一つとしてチームワークがあると考え。社員一人ひとりの成長を考えた制度であり、社員の比較をするものではない。過度な競争を助長するようなものではない。

チームワークの重要性を確認！過度な競争を持ち込む「組織再編」「人事・賃金制度の改正」ではないことを確認！

3. 各事業本部内において、各系統の教育・指導担当を配置し、技術力の維持・向上を図ること。また、各系統のプロを育成すること。

●各系統におけるプロの育成は必要である。担当を配置すべきだ。

■一流人材を育成していくことに異論はない。スペシャリスト、ゼネラリスト両方必要である。必要な要員は確保していく。これまで同様に、乗務員は指導担当、設備・電気は安全教育グループ、車両は技術管理室が教育・指導を行う。

●訓練センターは系統のプロ育成のために重要である。再編後の対応を明確にすべきだ。

■訓練センターはこれまで同様に重要な施設である。36 事業本部となることで、青森事業本部・東京事業本部・武蔵野事業本部については、現在の支社を跨ぐため、受講方法等は地方議論で示していく。

必要な教育を行い、スペシャリスト・ゼネラリストを育成していくことを確認！訓練センターは系統のプロの教育・育成のため、重要な施設であることは変わらないことを確認！

4. 組合員の健康を守るために、必要な要員を確保・配置し、時間外労働の削減と適正な労働時間管理を徹底すること。

●要員不足が一向に解消されない。あわせて、時間外労働の削減も課題である。具体的な取り組みを求める。

■要員需給がひっ迫しているところが一部あることは認識している。効率化、採用、退職抑制を引き続きおこなっていく。労働時間削減については、効率化、DX で努めている。

●統括センター化、「融合と連携」で現場における企画業務が増えている。事業本部になればさらに増えていくと考える。今でさえ、行路の合間でパソコンをしていたり、管理者の指示なく企画業務を行っていることが見受けられている。労働時間管理をしっかり行わなければ、健康を害してしまう。

■労働時間管理は大事である。働いた分は賃金として支払う原則は遵守していく。勤務の合間、勤務の前後など、きちんと申告してもらわなければならない。適正に管理することを徹底していく。

組合員の健康を守ることを確認し、時間外労働の削減に向けて取り組んでいくことを確認！1分でも働いたら労働時間！適正な労働時間管理の徹底を確認！

③へ続く